



みのる法律事務所便り
令和5年10月第402号



みのる法律事務所
弁護士 千田 實
〒021-0853
岩手県一関市字相去57番地5
TEL:0191-23-8960
FAX:0191-23-8950



いなべん だべんく
田舎弁護士の駄弁句 149

うれしくも 信じられずに ほほつねる

思いもかけず ほめられびっくり

令和5(2023)年10月1日
あおぞらうきよのすて
青空浮世乃捨



「こんな本を書いても、誰も読んでくれる人などいないだろう」と思いながら書いた駄弁本は160冊を超えて発行しました。

年寄りとなり、何もやることがないと、「死んだ先はどうなるのだろうか」などと、つまらないことを考えてしまいます。暇潰しに駄弁本を書いてきました。誰かにほめられることなど考えたことはありません。そう願ったこともありません。

ところが、その道では日本の第一人者と思える司法ジャーナリストの先生から、「私も長く、この世界の方の著作を目にしてみました。ここまで地方弁護士の役割とその在るべき姿について、その精神にも関わる示唆に富んだ類書は、正直見たことはありません」というメールを頂戴しました。

うれしくて、うれしくて、しょうがなかったのですが、信じられずに、ほほを何度もつねってみました。本当にうれしかったのです。

この事務所便りをお読み下さっている皆様には、そのうれしさを伝えたく、『的外』令和5年8月号でお知らせしましたが、それでは足りずに、今回はこのような駄弁句を詠んでしまいました。

酷い句ですが、私の正直な気持ちです。駄弁本を160冊を超えて書いてきたことが報いられたようでうれしいのです。思い出すが、涙が滲んできます。

いなべん だべんく
田舎弁護士の駄弁句

150

まな 学ばずに しら 調べもせずに 考えず

思うことだけ 書いた本かな

令和5(2023)年10月1日

あおぞらうきよのすて
青空浮世乃捨

これまで発行した160冊を超える駄弁本は、勉強をして書いたものは1冊もなく、何かを調べて書いた本も1冊ありません。よく考えたものでもありません。全部自分の頭に浮かんだ思い付きをそのまま書いたものばかりです。

前句の解説で、ジャーナリストの先生が「正直見たことがあります」とご指摘くださっているのは、その通りだと思います。私一人の思い付きを書いていますので、学問書などには出てこない筈です。だから誰も見たことはない筈です。

私としては、勉強したり、調べたりする能力も、時間もありません。眠くなかったり、打ち合わせの合間があったりした時に、思い付いたことを書くのですから、他の本に出てくるようなことは書けないのです。自分だけが知っていることを誰でも分かるように書いて知らせたいという思いで書いているだけです。

それに対し、「見たことがない」と言ってもらえたことは、駄弁本を書いてきた身としては、何よりもうれしいのです。そこで、前句とこの駄弁句を詠みました。

私の駄弁本は、私の体験をベースにして、自分の思うことを述べていますので、「自分にしか書けない」ものであることは、間違いありません。

井上ひさし氏(小説家、1934-2010)は、『作文の秘訣』において「作文のこつは、自分にしか書けないことを書く」と教えていますが、それを実践しているだけです。

司法ウオッチ



インターネット情報には、投稿・言論サイト『司法ウオッチ』の主宰（人々しゅさいをまとめ、中心となってものごとおこなう人）である河野真樹氏を次のように紹介しています。

司法ジャーナリスト。法律家向け専門紙「週間法律新聞」の記者・編集長として約30年間活動。コラム「飛耳長目」執筆。2010年7月末で独立。司法の真の姿を伝えることを目指すとともに、司法に関する開かれた発言の場を提供する、投稿・言論サイト「司法ウオッチ」主宰。

その河野真樹氏は、これまでも駄弁本を司法ウオッチで取り上げてくれました。2023年7月15日には、次のようなメールをくださいました。あまりにもうれしく、この『的外』令和5年8月号で紹介しましたが、今回前記のような駄弁句を詠みよみましたので、もう一度紹介します。

河野真樹氏という司法界の情報に最も明るい卓越たくえつしたジャーナリストの先生に、このようなメールを頂戴できたことで、これまで160冊を超える駄弁本を発行してきた身としては、これ以上にうれしく、ありがたいことはありません。あまりにうれしくて、前句を読んだのですが、それでも足りない思いがしますので、河野氏からのメール、河野氏のメールに対する私の返信メールを紹介します。

件名： 御礼とお願い

千田實先生

いつもお世話になります。

司法ウオッチ「田舎弁護士の大衆法律学」の第148回として、この項の最終回となる「いなべんの哲学」第6巻から「楽しく生きるための相続」の第3

0回を掲載^{けいさい}させて頂きました。ありがとうございました。

さて、次回からの連載についての、ご相談なのですが、結論から申し上げますと、もし、お許しが頂けるのであれば、先生の新刊である「地方弁護士の役割と在り方」三部作をこれから少しずつ当欄でご紹介させて頂けないかと考えております。今年4月に初版^{けおん}を発行したばかりの本であり、その点でご迷惑ではないか、ということ^{しき}を懸念^{けんねん}致しておりますが、内容を拝読し、その貴重な、示唆^{しよさく}に富む素晴らしい内容^{かんめい}に感銘し、是非にという気持ちになってしまいました。私も長く、この世界の方の著作を目にしてきましたが、ここまで地方弁護士の役割とその在るべき姿について、その精神にも関わる示唆^{しよさく}に富んだ類書は、正直見たことはありません。当サイトの読者にも、必ずや貴重な指針^{ししん}になるものと確信しております。

誠に勝手なお願いで、大変恐縮でございますが、何卒、ご許可を頂ければと存じます。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

河野真樹

これに対し、私は2023年7月19日付メールで次のように返答しました。



司法ウオッチ

河野真樹様

前略

2023年7月15日に嬉しいメールを頂戴しました。心底より御礼申し上げます。

「こんな駄文を書いても、誰も読んでくれない」と思っていました。河野様にメールを戴き、昇天するほど嬉しくて仕方ありません。河野様に、あのよ

うな駄文を活用して戴けるなら、こんなに嬉しく、ありがたいことはございません。どうぞ、どのようにでもお使い下さるよう、こちらからお願い申し上げます。いつも本当にありがとうございます。

河野様からメールを頂戴し、エネルギーを補給させて戴きました。「法と哲学を融合させなければならない」という思いで、『実際に役立つ哲学』、『円満相続』、『ドラマ円満相続－氏神様になりたい老弁護士の話』を執筆しています。発行することができましたら、河野様にはいの一番にお読み戴きたいと思えます。河野様にお読み戴くことを楽しみに書いてみます。河野様のメールによって、その気持ちがより強くなり、スピードアップしていますので、そんなにかからないで発刊できるのではないかという気がしています。

本当にありがとうございます。これからも、ご指導下さるようお願い申し上げます。

草々

田舎弁護士 千田 實
(minoru@minoru-law.com)

161冊の駄弁本を発行してきましたが、専門分野の先生にこのようにほめられたことなどなく、舞い上がってしまいました。これまでもこの事務所便りをお読み下さっている方からは、「同感だ」とか「共鳴する」とか、中には「中央で出版するべきだ」などと言ってもらうことも少なくなかったのですが、親しい人に知ってもらうだけで十分だとの思いが強く、世の中に広く知らせようとはしませんでした。

ですが、弁護士は全国にいらっしゃいます。今回は全国の弁護士に知ってもらいたいという気持ちになり、『地方弁護士の役割と在り方』三部作を紹介したところ、司法ウオッチ様からこのような思いも掛けないメールを戴き、舞い上がってしまいました。





「生涯に100冊の本を発行したい」と、家族や友人に宣言したのは、数え年で61歳の還暦^{かんれき}の席上でした。それまでも数冊の本を発行していましたが、還暦の宣言からピッチ^{ピッチ}（速度）が上がり、81歳となった今日^{こんにち}、161冊となりました。還暦^{かんれき}に掲げた目標を大幅に超えました。

いつも「こんな本を発行しても、誰も読んでくれないだろう」と思いながら書いてきましたが、思いも掛けずにほめてもらったりすることもあります。そんな時は昇天するほど嬉しくなります。司法ウオッチ様にほめられ、嬉しくなったついでに、調子に乗ってこれまで発行した駄弁本を振り返ってみます。

これまで発行した駄弁本をジャンル（分野）別にまとめてみますと、法律分野の本は74冊、物語（小説）の本は23冊、老人の生き方の本は22冊、医療の本は21冊、哲学の本は11冊、体験の本は6冊、巨大津波の本は4冊となっています。

どの分野も厳格^{おびとげ}に言うと、他の分野に重なる部分もあり正確な分類とは言えません。ですが、大雑把^{おおざっぱ}にジャンル分けすると以上のようになりそうです。

これによりますと数の上では、法律、物語、老人の生き方、医療、哲学、体験、津波という順になっています。これまで生きている中で個人的に関心が強かったことの順番だったような気がします。

どの駄弁本も、この根底には『人生は、いまの一瞬を、まわりの人といっしょに、楽しみ尽くすのみです』という『田舎弁護士^{いなべん}の哲学』が流れていることは間違いない筈です。

特に74冊の法律の本のうち、26冊は『戦争の放棄』の本です。駄弁本で最も言いたいことは、「戦争はしてはならない、させてはならない」ということであることが分かってもらえると思います。

「正義の戦争よりも、不正義でも平和がいい」という田舎弁護士^{いなべん}の生き方は一貫していると自負しています。今後も人間の幸せの実現を目指した本を書き続けます。



近日中に発刊予定の駄弁本は、①『円満相続』、②『ドラマ円満相続』、③『倫理と法律』、④『パートナーを見付けよう』の4冊です。これらの本は並行して書いています。いずれの本も、令和5（2023）年年末から、令和6（2024）年年頭には発刊できそうです。

この間にも書きたいと思うことが出てくれば、並行して書いてみます。高齢者となり、夜中に目が覚め眠れなくなったり、予定していたクライアント（相談者、依頼者）が来所でできなくなったりして、暇ができると夢中になって書いてしまい、合間を埋めるのに救われるのです。そうしていないと、死んだ先のことや、浮世のあれこれのつまらないことを考え、頭が痛くなるのです。

①『円満相続』という本は、相続問題を法律と裁判で解決しようとしては法廷闘争となり、血で血を洗うような骨肉相食む争いとなるので、法律を超えた「正、反、合」という弁証法という哲学的思考方法で解決すべきであるという本です。

相続問題を法律と裁判で解決しようとした場合の問題点と哲学的思考で解決する方法の違いを指摘して、相続問題は、関係者の心の歩み寄りによって解決すべきであるという私見、つまり個人的な意見を述べるものです。

②『ドラマ円満相続』という本は、『円満相続』で述べたことをもっと分かり易く理解してもらいたいと思い、法律と裁判で相続問題を解決しようとした場合と、哲学的思考というか、心の歩み寄りによって解決しようとした場合の違いを、ドラマ（芝居）風しほいに書き直したものです。

具体的にドラマ仕立てにすれば分かり易くなるだろうと考えたのですが、ドラマの脚本など書いたことがなく、四苦八苦しています。それも暇潰しにはよいと楽しんでます。

③『倫理と法律』という本は、弁護士生活を50年以上、倫理法人会会員20年以上の体験をさせてもらい、倫理と法律とはどういう関係にあるのだろうかという思いが湧いて来ていましたので、第一部「倫理と法律の異同」、第二

部「倫理と法律の役割」、第三部「万人幸福の^{しおり}葉と日本国憲法の心」の3部作に分けて倫理と法律に関して思うところを書いてみました。

倫理法人会の皆様には御一読戴ければ嬉しく、^{なな}斜め読みでもして戴ければ幸甚です。

④『パートナーを見付けよう』という本は、令和4（2022）年11月に『自立して生活する老人を支援するネットワーク』（以下「ネットワーク」という）を立ち上げ、1年が経過しました。これと言って目立った活動はできませんでした。それでもネットワークの存在は心強いと、多くの老人から声を掛けてもらっています。

1年を経過して最近思うことは、ネットワークは自立して生活する老人に知恵と情報を提供することが大きな役割だと確信するに至りました。その第1回目として、自立して老人生活を送っている独身男性と独身女性は互いにパートナーとなって愛し合い、支援し合うというやり方についての情報を^{ていしょう}提唱したいという思いに至り、その思いを駄弁本にまとめました。

このような駄弁本を書くのは、^{ひまつぶ}暇潰しのために楽しんでやっていますので、書く身はそれで満足ですが、それを送り付けられる皆様にとっては、ゴミを送り付けられることとなっていて、ただただ申し訳ないという思いで心が痛みます。どうか寛大なお気持ちで「世の中には、そういう馬鹿もいるのだ」と笑って許してやって下さい。

それでも「読んでくれるかも知れない」などという思いが少しでもありますと、書いている手に力が入るのです。タイトルと目次だけでも見て戴ければやる気が出ます。それだけでエネルギーをもらえるのです。勝手に言っていますが、どうぞお許し下さい。

